

平成 28 年 3 月の解説（週間天気予報）

【3 月の天候状況】

上旬は、日本付近を高気圧と低気圧が交互に通過し、全国的に天気は数日の周期で変わりました。南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、気温は全国的に高く、東・西日本ではかなり高くなりました。北日本日本海側、東・西日本太平洋側、沖縄・奄美では、低気圧や前線の影響で旬降水量が多かった一方、東日本日本海側では、低気圧などの影響が小さく旬降水量はかなり少なくなりました。

中旬は、高気圧が大陸から日本付近に張り出した一方、日本の南海上を低気圧が数日の周期で通過しました。このため、高気圧に覆われることが多かった北日本では晴れた日が多くなりましたが、東・西日本太平洋側や沖縄・奄美では、低気圧や湿った気流の影響で雨の日が多くなりました。旬の前半は、大陸から高気圧が張り出したため、北からの寒気の影響を受けて、東日本から沖縄・奄美を中心に低温となりましたが、旬の後半は、寒気の影響を受けにくかったため、全国的に気温が高くなり、特に北・東日本では気温がかなり高くなりました。

下旬は、大陸から張り出す高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、北・東・西日本では旬間日照時間がかなり多くなりました。また、低気圧の影響が小さかったため、全国的に旬降水量は少なくなりました。寒気の影響を受けた沖縄・奄美では気温がかなり低くなりました。

月平均気温は、東・西日本でかなり高く、北日本で高くなりました。若松（福島県）など 3 地点で月平均気温の高い方からの 1 位の値を更新し、3 地点で高い方からの 1 位タイの値を記録しました。月降水量は、沖縄・奄美で多くなった一方で、北日本太平洋側と東・西日本日本海側でかなり少なくなり、北日本日本海側で少なくなりました。月間日照時間は、北日本太平洋側と西日本日本海側ではかなり多くなりました。降雪の深さ月合計は、北日本でかなり少なくなりました。

【3 月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は、全国平均では例年値（注）より 9 ポイント高い 79%でした。各地方の適中率では、全ての地方で例年値より高くなり、北日本および西日本の各地方と沖縄地方で 9～15 ポイント高くなりました。

最高気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.4 小さい 2.2 となりました。各地方の予報誤差は、全ての地方で例年値より小さくなり、東北、北陸、中国、四国の各地方で 0.5～0.9 小さくなりました。最低気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.1 小さい 2.1 となりました。各地方の予報誤差は、中国地方を除く全ての地方で例年値以下となりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【5 月の週間天気予報の利用にあたって】

5 月は、日本付近が移動性高気圧に覆われて、広い範囲で晴れる日が多くなります。一方で、日本の南海上に前線が停滞するようになり、例年だとこの時期に南西諸島は他の地方より一足早く梅雨に入ります。この前線が本州南岸付近まで北上して停滞すると、西日本や東日本でも曇りや雨の日が続くことがあり、時には大雨となることもあります。天候に左右されやすい屋外の活動や行事を準備される際は、最新の週間天気予報をご確認ください。